

秋学期第十三回課題解答例

1 (教科書の問 23.1) (1) 普通に第一象限で累次積分. $\int_0^\infty dx \int_0^\infty \frac{dy}{(1+x+y)^3} = \int_0^\infty dx \left[-\frac{1}{2} \frac{1}{(1+x+y)^2} \right]_{y=0}^{y=\infty} = \int_0^\infty \frac{dx}{2(1+x)^2} = \left[-\frac{1}{2} \frac{1}{1+x} \right]_0^\infty = \frac{1}{2}.$

(2) 極座標に変換. $2\pi \int_0^\infty \frac{rdr}{(1+r^2)(2+r^2)} \stackrel{r^2=t}{=} \pi \int_0^\infty \frac{dt}{(1+t)(2+t)} = \pi \int_0^\infty \left(\frac{1}{1+t} - \frac{1}{2+t} \right) dt = \pi \left[\log \frac{1+t}{2+t} \right]_0^\infty = \pi(\log 1 - \log(1/2)) = \pi \log 2.$

(3) $1+x^2+xy+y^2 = 1 + \left(x + \frac{y}{2}\right)^2 + \frac{3}{4}y^2$ と平方完成すると問題の積分は $\iint_{\mathbb{R}^2} \frac{dxdy}{1 + (x + \frac{y}{2})^2 + \frac{3}{4}y^2}$ となる. そこで $u = x + \frac{y}{2}, v = \frac{\sqrt{3}}{2}y$ とおく. これは $x = u - \frac{1}{\sqrt{3}}v, y = \frac{2}{\sqrt{3}}v$ と同じことである. このとき $J = \det \begin{pmatrix} x_u & x_v \\ y_u & y_v \end{pmatrix} = \frac{2}{\sqrt{3}}$ だから, 問題の積分は $\frac{2}{\sqrt{3}} \iint_{\mathbb{R}^2} \frac{dudv}{(1+u^2+v^2)^2} \stackrel{u=r \cos \theta, v=r \sin \theta}{=} \frac{2 \cdot 2\pi}{\sqrt{3}} \int_0^\infty \frac{rdr}{(1+r^2)^2} \stackrel{r^2=t}{=} \frac{2\pi}{\sqrt{2}} \int_0^\infty \frac{dt}{(1+t)^2} = \frac{2\pi}{\sqrt{3}} \left[-\frac{1}{1+t} \right]_0^\infty = \frac{2\pi}{\sqrt{3}}.$

(別法) この問題では (一次変換を経由しないで) いきなり極座標を使うのは得策とは思えないが, もし極座標に変数変換したらどうなるかやってみる. $x = r \cos \theta, y = r \sin \theta$ とおくと問題の積分は $\int_0^{2\pi} d\theta \int_0^\infty \frac{rdr}{(1+r^2(1+\cos \theta \sin \theta))^2}$ となる. $A = 1+\cos \theta \sin \theta$ とおくと $\int_0^\infty \frac{rdr}{(1+r^2(1+\cos \theta \sin \theta))^2} = \int_0^\infty \frac{rdr}{(1+Ar^2)^2} = \frac{1}{2A} \left[-\frac{1}{(1+Ar^2)} \right]_0^\infty = \frac{1}{2A}$ である. 問題の積分は, $y = \cos \theta \sin \theta = (1/2) \sin 2\theta$ のグラフの形状 (周期と対称性) を考えると次のようになる: $\frac{1}{2} \int_0^{2\pi} \frac{d\theta}{1+\cos \theta \sin \theta} = \int_0^\pi \frac{d\theta}{1+\cos \theta \sin \theta} = \int_0^{\frac{\pi}{2}} \left(\frac{1}{1+\cos \theta \sin \theta} + \frac{1}{1-\cos \theta \sin \theta} \right) d\theta \stackrel{t=\tan \theta}{=} \int_0^\infty \left(\frac{1}{t^2+1+t} - \frac{1}{t^2+1-t} \right) dt$ となる. なぜなら $(1+t^2)d\theta = dt$ だから. 分母を平方完成して $t \pm \frac{1}{2} = \frac{\sqrt{3}}{2}u$ とおいて $\arctan u = \int du/(u^2+1)$ を使うと $\int_0^\infty \frac{dt}{t^2 \pm t + 1} = \int_0^\infty \frac{dt}{(t \pm \frac{1}{2})^2 + \frac{3}{4}} = \frac{2}{\sqrt{3}} \int_{\pm 1/\sqrt{3}}^\infty \frac{du}{u^2+1} = \frac{2}{\sqrt{3}}(\pi/2 \mp \pi/6)$ だから, 問題の積分は $\frac{2\pi}{\sqrt{3}}$ である.

(4) $u = x + \frac{y+1}{2}, v = \frac{\sqrt{3}}{2}y + \frac{1}{2\sqrt{3}}$ とおくと, e の肩の二次式は $\left(x + \frac{y+1}{2}\right)^2 + \left(\frac{\sqrt{3}}{2}y + \frac{1}{2\sqrt{3}}\right)^2 - \frac{1}{3} = u^2 + v^2 - \frac{1}{3}$ と平方完成できる. このとき, $x = u - \frac{v}{\sqrt{3}} - \frac{1}{3}, y = \frac{2}{\sqrt{3}}v - \frac{1}{3}$ であつて, $J = \det \begin{pmatrix} x_u & x_v \\ y_u & y_v \end{pmatrix} = \frac{2}{\sqrt{3}}$ である. ここで, 公式 $\iint_{\mathbb{R}^2} e^{-(x^2+y^2)} dxdy = \pi$ を使う. この公式の証明: $\iint_{\mathbb{R}^2} e^{-(x^2+y^2)} dxdy \stackrel{x=r \cos \theta, y=r \sin \theta}{=} 2\pi \int_0^\infty e^{-r^2} rdr \stackrel{r^2=t}{=} \pi \int_0^\infty e^{-t} dt = \pi.$ この公式を使うと, 問題の積分は $e^{\frac{1}{3}} \frac{2}{\sqrt{3}} \iint_{\mathbb{R}^2} e^{-u^2-v^2} dudv = \frac{2e^{\frac{1}{3}}\pi}{\sqrt{3}}$ である.

注意. 21.3 (3)(4) の解法の基本的な考え方: 二変数二次式を, まず一つの文字, 例えば x についての二次式だと思って平方完成する. この時, 定数項は y の二次式である. それを平方完成する. その結果, 元の二次式が $u^2 + v^2 + \text{定数}$ の形になるような一次変換 $(x, y) \mapsto (u, v)$ を見つけられる. 問題の二次式が $u^2 + v^2$ になったら, 極座標への変数変換ができて計算が進行する.

2. $\int_0^\infty \int_0^\infty e^{-(x^2+xy+y^2)} dx dy$ の計算. まず, 計算例

$$V = \iint_{\mathbb{R}^2} e^{-(x^2+xy+y^2)} dx dy = \frac{2}{\sqrt{3}}\pi$$

を復習する. e の肩にのっている 2 次式を平方完成すると $-\frac{3}{4}x^2 - \left(y + \frac{x}{2}\right)^2$ である. そこで $u = \frac{\sqrt{3}}{2}x$, $v = y + \frac{x}{2}$ と変数変換する. これは $x = \frac{2}{\sqrt{3}}u$, $y = v - \frac{1}{\sqrt{3}}u$ と同値である. よって $J(u, v) = \det \begin{pmatrix} x_u & x_v \\ y_u & y_v \end{pmatrix} = \frac{2}{\sqrt{3}}$ である. したがって積分の変数変換公式より

$$V = \iint_{\mathbb{R}^2} e^{-u^2-v^2} \frac{2}{\sqrt{3}} du dv$$

である. 最後に $u = r \cos \theta$, $v = r \sin \theta$ と極座標に変換すると $J(u, v) = r$ だから

$$V = \frac{2}{\sqrt{3}} 2\pi \int_0^\infty e^{-r^2} r dr = \frac{2}{\sqrt{3}}\pi$$

である. ここで $\int_0^\infty e^{-r^2} r dr = \frac{1}{2} \int_0^\infty e^{-t} dt = \frac{1}{2}$ という計算を行った.

次に, 問題の積分

$$\int_0^\infty \int_0^\infty e^{-(x^2+xy+y^2)} dx dy$$

の計算を行う. e の肩にのっている 2 次式を平方完成して 1 次変換を考え, さらに極座標変換するところまでは上と同じである. 問題の積分の積分範囲 D は第 1 象限だから, 1 次変数によって対応する積分範囲 D' はもはや全空間ではない. この問題では積分範囲 D は第 1 象限 $x > 0$, $y > 0$ であり, $x = \frac{2}{\sqrt{3}}u$, $y = v - \frac{1}{\sqrt{3}}u$ だったから, 対応する uv 平面の領域 D' は, $\frac{2}{\sqrt{3}}u > 0$, $v - \frac{1}{\sqrt{3}}u > 0$ という不等式で与えられる. よって

$$D' : u > 0, v - \frac{u}{\sqrt{3}} > 0$$

である. これは, uv 平面において, 原点を頂点とする中心角が $\frac{\pi}{6} \leq \theta \leq \frac{\pi}{2}$ で半径が無限大の扇形である. 問題の積分は

$$\frac{2}{\sqrt{3}} \iint_{D'} e^{-u^2-v^2} du dv$$

である. 極座標変換 $u = r \cos \theta$, $v = r \sin \theta$ によって D' は $r\theta$ 平面の領域

$$E : 0 < r < \infty, \quad \frac{\pi}{6} < \theta < \frac{\pi}{2}$$

にうつる. 極座標変換の面積比は $J(r, \theta) = r$ だから, 問題の積分は

$$\begin{aligned} \frac{2}{\sqrt{3}} \iint_E e^{-r^2} r dr d\theta &= \frac{2}{\sqrt{3}} \left(\frac{\pi}{2} - \frac{\pi}{6} \right) \int_0^\infty e^{-r^2} r dr \quad [\text{先に } \theta \text{ で積分}] \\ &= \frac{2}{\sqrt{3}} \frac{\pi}{3} \frac{1}{2} \int_0^\infty e^{-t} dt \quad [r^2 = t \text{ とおいて置換積分}] \\ &= \frac{2}{\sqrt{3}} \frac{\pi}{3} \frac{1}{2} = \frac{\pi}{3\sqrt{3}} \end{aligned}$$

である.